

令和6（2024）年度 第2回柏崎市環境審議会 議事概要

市民生活部環境課環境政策係

このことについて以下のとおり報告します。

- 日時 令和7（2025）年3月26日（水）13：30～15：00
- 会場 クリーンセンターかしわざき 1階 大会議室
- 出席者
 - 委員 伊藤委員、佐藤委員、徳永委員、松澤委員、阿部委員、竹井委員、蒼原委員、
宮田委員、迎田委員、今井委員（欠席委員：田村委員、村山委員、若月委員、春川委員）
 - 事務局 小黒市民生活部長
（環境課）若月課長、今井課長代理、山田課長代理、江部係長、藤田係長、小川主任、
若林主事
- 議事概要

	1 開会 2 審議会会長あいさつ 3 報告事項 （1）新ごみ処理場整備・運営事業の契約について 事務局が【資料1】に沿って説明した。 意見・質疑なし （2）令和7（2025）年度の主な取組について ア 新ごみ処理場整備及びリサイクルセンターの再編について 事務局が【資料2】に沿って説明した。
委員	・リサイクルセンターとリサイクルステーションの違いは何か。
事務局	・リサイクルセンターは比較的大規模な基幹的なものを指し、リサイクルステーションは規模が小さく、主に近隣住民が利用するものである。 ・現在の松波リサイクルセンターは、新ごみ処理場建設に伴い利用できなくなる。リサイクルセンターは多くの市民から利用いただいている施設であり、佐藤池に移設するものである。 ・松波小規模リサイクルステーションについては、主に松波地区を中心に近隣住民が利用できるように設置するものである。

委員	・新設するリサイクルステーション等の規模や想定する利用人数はどのくらいか。資源ごみを受け入れる曜日の運用は現行通りか。
事務局	・新設する佐藤池リサイクルセンターの規模及び利用人数は、現在の松波リサイクルセンターと同規模を見込んでいる。松波小規模リサイクルステーションは、現在佐藤池サッカーコートクラブハウスで実施しているものと同規模である。近隣住民の利用が多く、利用者は松波リサイクルセンターの2割程度を想定しており、同規模でまかなえたと想定している。 ・開設曜日については、新設する佐藤池リサイクルセンターは現行の松波リサイクルセンターと同様の予定としている。松波小規模リサイクルステーションは、近隣住民の意見も参考にしつつ、週3日開設は維持したいと考えている。
委員	・新ごみ処理場が稼働した後も、同じ場所で収集を続けるのか。
事務局	・佐藤池リサイクルセンターは30年程度利用できるよう新設する。松波小規模リサイクルステーションについては、新ごみ処理場が完成するまでの間の仮設であり、完成後は現在のごみ処理場の跡地にリサイクルの拠点を設ける予定だが、現時点で詳細は未定である。
委員	・リサイクルステーション等に管理者は常駐しているのか。
事務局	・松波リサイクルセンターの運営はたいよう福祉会に委託しており、佐藤池リサイクルセンターに移転してからも同様に考えている。
委員	・現在実施している佐藤池資源物リサイクルステーションに管理者はいるのか。
事務局	・シルバー人材センターが常駐している。
副会長	・市の職員は常駐しないのか。
事務局	・市の職員は常駐しない。
委員	・現在の松波リサイクルセンターをいつまで稼働させるのかは決まっているのか。
事務局	・10月下旬までを予定しているが、正確な日程は未定である。スムーズに佐藤池リ

	サイクルセンターへ移行できるようにしたい。
委員	・松波小規模リサイクルステーションでは、受入れ品目が少なくなるのか。
事務局	・現在の松波リサイクルセンターより小規模になり、回収品目は少なくなる。地域特性に応じた回収品目としていきたい。
	イ 環境課事業の方向性について 事務局が【資料３】に沿って説明した。
委員	・消雪パイプ用の井戸の掘削に規制はあるか。
事務局	・規制は無いものの、高速道路より海側の地域では、新規の掘削をしないよう協力を求めている。
委員	・海岸清掃で集めたごみはどこで処分しているのか。
事務局	・クリーンセンターで処理している。
副会長	・低炭素型創エネ・省エネ機器導入補助金における太陽光パネルの補助について教えてほしい。
事務局	・太陽光パネルと蓄電池を組み合わせで補助している。上限額は最大で２０万円である。
委員	・蕨野地内の廃タイヤは、１年間で処理が完了する予定なのか。今年度は何トン処理したのか。
事務局	・来年度内の処理完了を目指している。今年度は４８０トン処理した。
委員	・大気汚染について、PM２．５や黄砂の測定はしているのか。
事務局	・県が測定している。濃度が高い場合は県から市町村に情報が入り、市民に周知できる体制としている。
事務局	・大気や水などの広域にわたるものは、県がモニタリングなどを行っている。市では詳

委員	細に測定すべきものについて、ポイント測定などの協力をしている。注意報や警報の発令などは、県と協力して実施している。 ・回収した廃タイヤはどのように処理しているのか。
事務局	・細かく裁断し、助燃剤としてリサイクルしている。
委員	・クマ用の罠を増やすとあるが、防護柵以外に罠を設置するのか。また、捕獲したクマはどのように処理しているのか。
事務局	・捕獲したクマは焼却処分している。
事務局	・防護柵はハクビシンやイノシシ等の生活被害を与える比較的小さな鳥獣に対応したものである。クマの被害を防護柵で防ぐのは難しいため、クマ対策としては罠を使用しており、それを増強する予定である。
委員	・クマ用の罠は人家のないところに設置するのか。
事務局	・その通りである。
副会長	・捕獲したクマを焼却せず、ジビエ等で活用する考えはあるか。
事務局	・近隣に加工処理施設があれば有効活用することはできるが、そのような施設がないことから焼却している。
事務局	・以前市議会でもジビエ活用について質問があった。その際には、安定的に運営できるほどの捕獲数は無く、加工処理施設の設置は難しいとの見解を示させていただいた。
会長	(3) 意見交換 ・昨年度策定したゼロカーボンシティ推進戦略に基づき、実効性のある施策を推進してもらいたい。環境教育の強化も重要であるので、継続的な取組をお願いしたい。
副会長	・佐渡市消費者協会では段ボールコンポスト運動を実施している。インターネットを見るとバッグ式のものも売られているようである。消費者が簡単に取り組めるコンポスト化の情報があれば教えてほしい。

事務局	・コンポストはモデル事業として実施したことがあるが、時代の変化や地域の負担増により広がるまでには至らなかった。個人で取り組める活動があれば、市民に紹介することなどを検討していきたい。
委員	・去年から極端にイノシシが増えたと感じており、引き続き対応をお願いしたい。
委員	・柏崎市は各種補助制度があり、環境施策に力を入れていると感じる。新ごみ処理場の建設などに際し、必要な届出などの手続きをしっかりと行っていただくようお願いしたい。
委員	・環境政策係で実施している補助金を利用する人は増加しているのか。補助上限額を上げて利用を促進するのによいのではないか。また、より広く周知活動ができるとよいと思う。
事務局	・低炭素型創エネ・省エネ機器導入補助金は前年度と比較して補助対象を集約したが、太陽光発電設備・蓄電池の補助件数は伸びている。電気自動車等購入補助金は、車体価格が上がっていることによる購入控えもあり、申請数は落ち着いた。市民への周知や補助金額の増額という御意見も参考にしながら引き続き実施していきたい。
委員	・D X又はG Xに取り組むことを要件とする県の事業者向け補助制度があるが、多くの事業者はD Xを選択している。G Xの取組はあまり進んでいないと実感しており、メリットを周知していかなければならないと思う。
委員	・地球温暖化防止活動推進員として他市町村の環境イベントなどを視察することがある。子ども連れの保護者に向けた啓発などの取組も必要であると感じた。収穫祭のようなイベントで周知を図ることを検討してもよいのではないか。
委員	・鳥獣対策など、身の回りでも切実な問題であると改めて感じた。自分の生活とつなげて考えることができた。
委員	・新年度はリサイクルセンターの移設など大きな事業もあるが、引き続きリサイクルなどの取組をお願いしたい。
委員	・スプレー缶は資源物として正しく出さないと回収車両の火災につながりかねない。そうした事故が全国的に起きていると聞いているので、正しい出し方について注意喚起をしてもらえるとありがたい。資源物・ごみの分別ガイドブックを更新した際は教えていただきたい。

副会長	・市と企業が実施する省エネエアコンの補助制度は何が違うのか。
事務局	・企業側は省エネを進めたいという意図があって実施していると思われる。市が実施している省エネエアコンへの補助は、国の交付金を活用している。推奨メニューの一つであり、脱炭素につながる取組である。
事務局	・市の補助は、エネルギー価格高騰対策、生活支援を目的として実施しているが、省エネエアコンへの買い換えを通じて省エネや脱炭素への意識を高めてもらうこともねらいである。
委員	・夏渡の最終処分場はあとどのくらい使用できるのか。
事務局	・現状では令和20（2038）年までと試算している。ただし、新ごみ処理場が稼働すると、処分量の減少が見込まれ、使用期間が伸びることが期待される。
	4 市民生活部長あいさつ 5 閉会
	以上